

函館市におけるFGPJタスクフォースとまちづくり研究会

中村拓也 公益社団法人 日本都市計画学会 北海道支部 Future Generation Project タスクフォース
/株式会社 函館ラボラトリー マネージャー

1. 「まちづくりサロン」について

北海道支部では、特別プログラムとして次世代（Future Generation：以下はFGとする。）のための都市計画を実証的に考える取り組みとして、池ノ上真一（北海道教育大学准教授）を中心にFGPJ（Project）タスクフォースを立ち上げました。2018年度より3年間を目途に、市全域が過疎地指定された函館市（人口約25.8万人）を対象地としました。問題意識としては、町並み保存やベイエリア開発、国史跡・五稜郭を使った市民野外劇や西部地区バル街など、まちづくりのショーケースのような地域にも拘わらず、人口減少が深刻化し、暮らしの満足度が低い中小規模の都市課題をいかに解決するかを検討すること。そして地方創生はじめ、数多くのまちづくりが展開されるも根本的な取り組みになっていない他の都市への汎用性の検討を行うことです。

方法としては、まずは函館の将来像を描き、その実現のための課題提言を目的として掲げました。それに向けた取り組みの第一弾として、これまでにどのようなまちづくりがあったか、その背景の考え方、経緯や体制等について、当時の中心的メンバー複数人からの聞き書きから始めました。またその手段として「まちづくりサロン」を設置、適宜開催しました。これは先人らへの聞き書きと、FGを中心とした共創的な理解、課題の検討を行いました。2018年度の具体の対象地区は、7月に西部地区、11～1月にかけては駅前・大門地区を対象にしました。

2. 西部地区編（2018年7月14日 @港の庵）

最初は、中世から港町として函館でも最初に街がつけられた西部地区を対象に3名のゲストを囲んで、函館のまちづくりの源流について聞きました。村岡武司氏からは函館の市民活動の原点とも言える「ユ

ニオンスクエア」誕生について、清水憲朔氏からは民間事業者としての歴史的建造物の再生について、室谷元男氏からは近隣の江差町との関係についてインスピレーショントークを頂き、次にゲスト毎に3つの班に分け、年表や地図、人物関連図を書き込み、詳細情報をまとめました。

3. 函館駅前・大門地区編（2018年11月3日～2019年1月27日 @はこだてTMOビル1階、café & deli MARU SEN、あうん堂ホール）

次は、かつて行政・商業・交通といった都市機能が集まった函館駅前・大門地区の象徴である「棒二森屋デパート」の閉店（今年1月末）を取り上げ、「棒二森屋終活応援プロジェクト」と称したまちづくりサロンを実施しました。棒二森屋がなぜ閉店しなければいけなかったか、また駅前・大門地区の凋落の構造と課題は何かを検討しました。棒二森屋を含めた函館駅前の写真や思い出、思い出等の収集を、トークライブやワークショップを全4回実施し、より広く、深い情報収集を努めました。東北支部からも多くの方が参加して頂いたことに感謝します。

4. おわりに

今年度の成果は、なにかと行政が悪いという官依存、あるいは民の仕事なのでと押しつけた民頼りを超えて、公民連携により街を「育てる」ためのエリアマネジメントが重要であることが見えてきました。実際にこの動きに市内の篤志家が多額の寄付を申し出てくれ、実態ある活動へと展開する予定です。まちづくりサロンをさらに継続、発展させ、今年度の課題解決への取り組み、および五稜郭、湯の川といった市内の拠点地区への展開も視野に入れ取り組みを進めていく予定です。



写真1 港の庵での様子



写真2 はこだてTMOビル1階の様子
(奥に閉店セール中の棒二森屋 本館が見える)